

光といのち

第155号

—秋彼岸—

2025年9月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール info@syozenji.or.jp

URL <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌(井上孝昌)

ナムアミダブツ
は生きた言葉の
仏です。



うらぼんえ 孟蘭盆会 「南無阿弥陀仏」 莊嚴

蓮は、毎年平群の長谷川誠様その子様夫妻から分けていただいております。蕾が見事に開きました。蓮は水揚げが難しいのです。

「『仏さま』たちのことをお願いします」と、寺に護持金を届けてくださる人がいます。亡き方を護り続けてくださいというお心なのでしよう。護持金は、みな様が仏教を聴聞し、さらに仏教を後世に伝えるための資金です。この納める側と受け取る側のずれを感じて、ずっと住職をしていきますが、それはともかくとして、亡くなった人は「仏さま」なのですか？

滋賀県で真宗大谷派寺院の住職をされていた宮戸道雄師の著書『仏に会うということ』（樹心社）に「ナムアミダブツは生きた言葉の仏です。仏さまという人がどこかにおられて、その仏さまにナムアミダブツと称えるんじゃないんです。ナムアミダブツが仏さまなんです。言葉になった仏さまなんです」とありました。

日ごろ「仏さま」と何気なく言っていますが、十人十色の「仏さま」があるようです。しかしそうではありません。

宮戸道雄師は「ナムアミダブツ」が「仏さま」。それは「生きた言葉の仏」と。

「生きた」とは、私に用いられている。私に影響し、私を変革する用きです。

「南無阿弥陀仏」は呪文でなく、「生きた言葉の仏さま」。我を通して生きているだけの私に、ほんとうは、「すべてと共に在る私」を教える「仏さま」です。

本堂やご家庭のお内仏に奉安されている阿弥陀如来立像は、お釈迦様の姿になって現れた「南無阿弥陀仏」です。

このご本尊「南無阿弥陀仏」は、私の心を映す「鏡」です。真宗門徒が、毎日礼拝し一日をスタートする設えです。

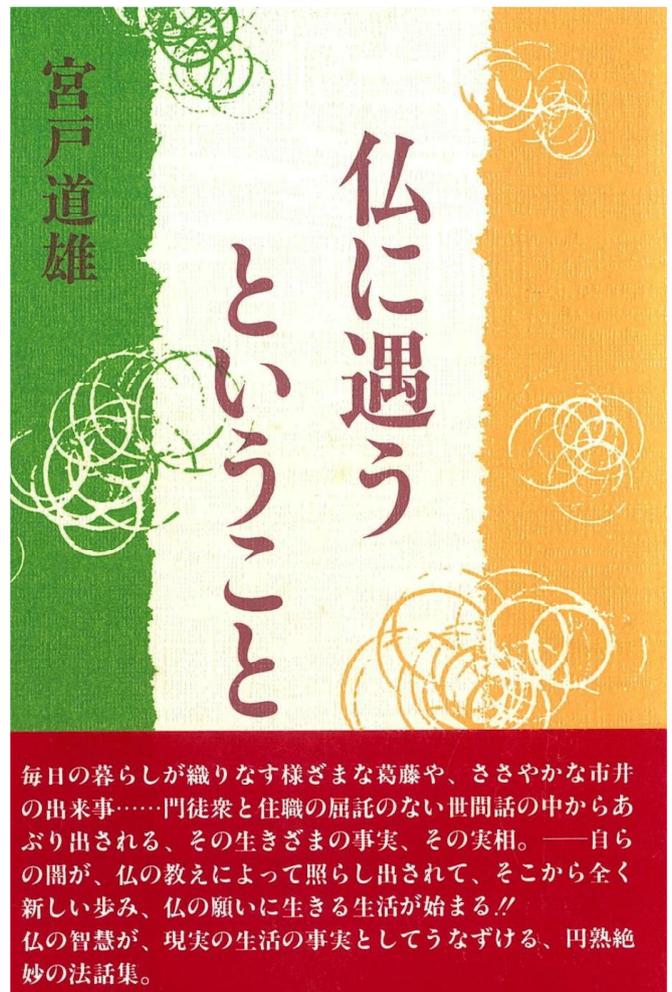
「南無阿弥陀仏」。この仏さまに遇わなかったら、我を通して生きているだけの私が「ほんとうの私」であるとも知らず、妄念妄想に振り回され優越感と劣等感を繰り返し、空しく一生を終えたことでしょうか。

あき び が ん え
秋彼岸会

9月23日(火)

秋分の日

10時〜11時30分



毎日の暮らしが織りなす様ざまな葛藤や、ささやかな市井の出来事……門徒衆と住職の屈託のない世間話の中からあぶり出される、その生きざまの事実、その実相。——自らの闇が、仏の教えによって照らし出されて、そこから全く新しい歩み、仏の願いに生きる生活が始まる!!
仏の智慧が、現実の生活の事実としてうなずける、円熟絶妙の法話集。

この本の中の「ウソとお上手のキャッチボール」を掲載しました。

宮戸道雄師は、「(世間の)おつきあいなんて、ウソとお上手のキャッチボールやないか。世間はそれしかないのやで、せめてお寺とお内仏の前だけは、本当の自分を言い当ててもらおうというか、叱られる処にしておかんと、一生自分と関わらずに終わることになってしまふもんね」と仰います。

「南無阿彌陀仏」に遇わなかったら、「ウソとお上手のキャッチボール」を毎日している私が、「我われに帰る(それに気づく)」こともありませんでした。

S (主婦四十一才)「ご院主さん、うちのお義母さん、ようお参りされますやろ、もう三十年ですも」

M (宮戸住職)「そうや、婦人会の大将や」

S 「でもご院主さん、お義母さんは、お寺で、嫁の私の悪口ばかり喋っておられるそうですね」

M 「そんなことない、誰がそんなことを言うとのや」

S 「ご院主さんは隠しておられるんや、私は確かに聞きました。あれほどお参りしても、人の悪口ばかり言うのなら、お参りした甲斐がありませんわね」

M 「まあそういうことやね」

S 「年寄りが寺へ集まって、嫁の悪口を言い合うから、若いもんが寺へ参らんようになるんとかいいますか」

M 「そうや、若いものが参らん中で、Sさんはよう参ってくれるんで、私も嬉しい。でもね、Sさんは同朋会にお参りして何年になるかな」

S 「もうかれこれ十年ですワ」

M 「十年にもなるか、十年も寺へ通うSさんは、お

寺で人の悪口は言わんかいね」

S 「あれー、ご院主さん、私が一度でも人の悪口を言ったですか……」

M 「そうか、本当に言うたことがないか、ほんまややな」

S 「ご院主さん、変なこと言わんでくださいよ、私がいっ言いましたか」

M 「そうか、じゃ聞くがね、今言うところは一体なんじゃ」

S 「今言うところって……」

M 「分からののか、お義母さんが悪口を言うところの、寺へ参った甲斐がないの……と。それは悪口とは言わんのかいね、どうじゃ」

S 「ウン……」

M 「人の悪きことはよくよくみゆるなり、わが身の悪きことは覚えざるものなり（蓮如上人）やな」

S 「私の言うところとも、つまり悪口……になりますのです……ね」

M 「Sさんが眼をむいて、口から泡をとばして喋るときは、いつも他人のこと、しかもその内容は、

人さまを裁くことばかりでないか。ね、それほど真剣になって、自分を問題にしたことがあったかね」

M 「考えてみると、ないです」

S 「ないどころか、お上手とおべんちゃらを言うてくれる人を探しておるんやないか」

S 「お上手とおべんちゃら……ですか」

M 「実は、私のことやけど、お上手とウソを言うてくれる人が好きになって、本当のことを言うてくださる人が憎らしうなるのよ」

S 「本当のことを言うてばかりいると、世間でおつきあいできませんで」

M 「おつきあいなんて、ウソとお上手のキャッチボールやないか。世間はそれしかないのやで、せめてお寺とお内仏の前だけは、本当の自分を言い当てるもらうというか、叱られる処にしておかんと、一生自分と関わらずに終わることになってしまいうもんね」

S 「ほんと、お義母さんのことではのうて、私のことでしたワ」

ご予約ください

報恩講に向けて

役員会

10月5日 13時30分

世話人総会

10月19日 13時30分

仏具磨き

11月10日 13時30分

報恩講準備

11月14日 13時30分

速夜 14日 15時

晨朝 15日 6時

日中 15日 10時

秋彼岸会 秋分の日

9月23日 (火)

修正会

1月2日 (金)

春彼岸会 春分の日

3月20日 (金)

盂蘭盆会

8月10日 (月)

時間 10時〜11時30分

※Zoomで配信します。

月曜朝のお勤め

毎週月曜日 6時

正信偈などを一緒にお勤めします。

「御文」を拝読後に、住職の法話があります。コロナ後にだんだん参加者が増えてきました。「あなた」もどうぞ。

仏教を聞き語り合う会

(同朋の会)

弟子唯円房が聞いた親鸞聖人の教えを記した『歎異抄』をテキストに、感じたこと思ったことを語り合います。

第1回 10月12日 (日)

第2回 2月8日 (日)

第3回 4月12日 (日)

第4回 5月10日 (日) 兼花まつり

第5回 7月19日 (日)

講師 住職

時間 13時30分〜16時

参加費 500円

テキスト 『歎異抄 白日抄』

※Zoomで配信します。

勝善寺聞法会

名古屋の高校で教鞭を執っている副住職が、法話します。

第1回 12月14日 (日)

第2回 6月14日 (日)

時間 13時30分〜16時

参加費 500円

テキスト 『歎異抄 白日抄』

※Zoomで配信します。

親鸞教室

千葉組主催の聞法会です。

実施日 1月26日 (月)

3月24日 (火)

6月1日 (月)

時間 13時30分

参加費 500円

新宿区専福寺住職二階堂行寿師にお話しいただきます。

松戸市西蓮寺が会場ですが、Zoom配信を勝善寺庫裏で聴聞し、聴いたことを皆さんで語り合いたいと思っています。

もちろん会場に赴き聴聞することもできます。

地区聞法会

八日講十日講

1月8日 (木)

6月7日 (日)

9時〜11時

中佐久間講

5月21日 (木)

13時30分〜16時

◎地区聞法会を開きませんか。二人以上集まれば開催できます。

除夜の鐘

12月31日 23時45分

奉仕作業 6月14日 (日)

8時30分から2時間程度

作業は草刈りとガラス拭きなど。

世話人以外の方もお願いします。

二部下世話人交代

久保田 守 様

お疲れさまでした。

永井 正行 様

よろしく申し上げます。



ヤブラン